

ペットの防災対策に必要なこと

災害は突然、やって来ます。

災害が発生したら、まずは飼い主自身の安全確保を大前提として、ペットと一緒に避難所に避難すること（ペット同行避難）が、国によって推奨されています。飼い主とペットと一緒に安全に避難でき、周囲の人に迷惑をかけずに安心して過ごすためにも、日ごろから災害への心構えと備えが大切になります。



●災害に備えて

- 住まいの防災対策（地震対策）を行いましたか
- 家族で防災について話し合いましたか
- 地域の避難所や避難経路などを確認しましたか
- 家族でペットを連れた避難訓練をしましたか
- ケージやキャリーバッグなど動物を避難させる用品を準備しましたか
- ペットに迷子札（犬は狂犬病予防法に基づく鑑札、注射済票）及びマイクロチップの装着はしましたか
- ペットに必要なしつけや予防接種などの健康管理をしていますか
- ペット用品やペットフード数日分（3日～1週間）の備蓄はしていますか
- この他、避難の時に持参するもの（診察券や薬など）を用意していますか

●家族で話し合い

災害が起こった時にどうするかについて、様々な場面を想定した対策を家族全員で話し合っておきましょう。災害の時にペットを守れるか、避難ができるのかについて、飼っているペットの種類や数をよく考えましょう。

- ・ 家族間の連絡方法及び集合場所
- ・ 非常持ち出し袋など備蓄物資の保管場所など
- ・ 飼っているペットの守り方及び避難方法
- ・ 飼い主が留守中の災害時の対処法

●避難訓練でのチェックポイント

まずは、住んでいる地域の避難所や避難経路などを確認しましょう。また、地域の避難訓練等でペットを連れて避難する方法を地域住民と話し合っておきましょう。

- ・ 避難所までの移動手段確保と所要時間
- ・ ガラスの破損や看板落下などの危険な場所
- ・ 通行できないときの迂回路
- ・ 避難場所でのペットの反応や行動
- ・ ペットが苦手な人への配慮



飼い主の責任

一緒に連れていけますか？

●頭数を考えていますか？

一緒に連れていける頭数は限られます。日ごろから、適正な頭数を飼いましょう。

既に複数頭飼育し、家族だけで避難が難しい場合は、ご近所や仲間などに、あらかじめお願いしておきましょう。

●不妊去勢手術をしていますか？

不妊手術をしておくこと、多くのペットと一緒に避難所でも、繁殖のための争いやストレスを軽減できます。また、はぐれている間に繁殖して放浪する動物が増えれば大きな問題となります。

問題行動防止のためにも、不妊去勢手術をしておきましょう。

●猫は室内飼いをおすすめします！

猫が外にいますと、災害が起きても呼び戻すことができず、一緒に連れていくことができません。

猫の室内飼いは、普段の猫の健康と安全を守ると同時に、災害への重要な備えです。

●大きさや健康状態を把握していますか？

病気や高齢のペットを飼っている場合は、補助具などの移動手段を考えたり、家族以外に移動などを手伝ってくれる人を、あらかじめ探しておきましょう。

身元を示すものを着けていますか？

災害に驚いて逃げてしまい、ペットが迷子になることがあります。保護された際に、元の飼い主のところに戻れるよう、普段から、外から見える迷子札などを着けましょう。また、マイクロチップを装着することで、首輪が取れた場合でも身元が分かり、二重対策にもなります。

